

台湾・新北市 三鶯線建設プロジェクトを受注 日立とアンサルドSTS社による初めての共同受注案件

株式会社日立製作所(執行役社長兼 CEO:東原 敏昭/以下、日立)と、鉄道システム事業におけるグループ会社であるアンサルド STS 社(CEO:Andy Barr)は、台湾の大手建設会社である栄工工程股份有限公司(RSEA Engineering Corp.)と 3 社のコンソーシアムで、台湾の新北市政府捷運工程局(Department of Rapid Transit System New Taipei City Government)と三鶯線(San Ying Line)の鉄道システム建設契約を締結しました。

契約範囲は、車両のほか、無線信号システム(CBTC*)を含む全自動無人運転の鉄道システム一式(変電・通信設備、ホームドア、車両基地設備などを含む)で、設計から建設までフルターンキー(工事込み設備一括請負契約)にて行うものです。日立は車両 58 両(2 両×29 編成)の設計・製造を行い、アンサルド STS 社はコンソーシアムの取りまとめとして車両を除く鉄道システム全体を、栄工工程股份有限公司は土木・建設工事を担当します。

新北市三鶯線建設プロジェクトは、新北市政府が進める初の大規模鉄道システム建設事業です。台北メトロ土城線頂埔(Dingpu)駅を起点とし、鶯歌(Yingge)方面までの約 14.29 キロメートル、12 駅、車両基地 1 箇所を含む、市西部のベッドタウンなどを貫く新規の高架路線です。建設期間は 2016 年の後半から 2023 年を予定しています。

日立は、鉄道分野におけるソリューションプロバイダーとして、都市鉄道から高速鉄道に至るまでさまざまな車両システムを国内外に提供してきました。今回受注した新北市三鶯線建設プロジェクトは、新たに日立グループに加わったアンサルド STS 社との初めての共同受注であり、このプロジェクトを契機に、アンサルド STS 社と密に連携し、ターンキープロジェクトに共同で取り組むことで、車両のみならず、信号システムや O&M の事業を強化し、グローバルに鉄道事業を拡大していきます。

■路線概要

- ・路線名:三鶯線(San Ying Line)
- ・区 間:約 14.29 km、台北メトロ土城線頂埔駅～鶯歌方面
- ・駅 数:12 駅、車両基地 1 箇所



■ 車両完成イメージ図



* CBTC(Communication Based Train Control) : IEEE(The Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc.)により IEEE1474 として規格化された都市交通向けの列車制御システム。

以上

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
